

政策評価調書(4年度実績)

政策名	恵まれた環境の未来への継承 ～おおいたうつくし作戦の推進～	政策コード	I-4	関係部局名	生活環境部、商工観光労働部、農林水産部、土木建築部
-----	----------------------------------	-------	-----	-------	---------------------------

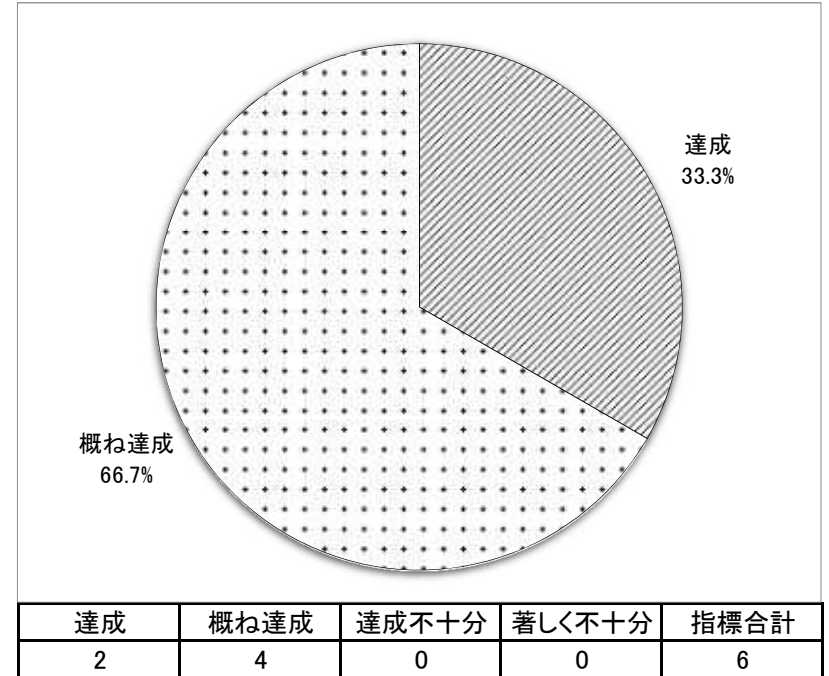
【Ⅰ. 政策の概要】

生物多様性や自然環境の保全と適正利用につながる取り組みや、3Rの推進、循環産業牽引企業の育成など、循環型社会づくりとともに、地球温暖化対策や環境教育などを推進し、地域活性化型の環境保全活動として「おおいたうつくし作戦」を進め、美しく快適な大分県を実現する。

【Ⅲ. 政策を構成する施策の評価結果】

	施策名	指標評価	総合評価
1	豊かな自然との共生と快適な地域環境の創造	達成	A
2	循環を基調とする地域社会の構築	概ね達成	A
3	地球温暖化対策の推進	達成	A
4	すべての主体が参加する美しく快適な県づくり	概ね達成	B

【Ⅱ. 構成施策の目標指標の達成状況】



【Ⅴ. 政策を取り巻く社会経済情勢・今後の動向】

本県は、緑豊かな山野、清らかな河川、変化に富んだ海岸線、源泉数・湧出量ともに日本一を誇る温泉資源など、多彩で豊かな天然自然や地域資源に恵まれている。アウトドア人気が高まる中、祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク、おおいた姫島及びおおいた豊後大野の日本ジオパーク、阿蘇くじゅう国立公園などの利用促進を図り、地域への経済波及効果を拡げることが必要である。

地球温暖化対策への取り組みが急務となる中、国をあげて取り組む2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、地域の特性を生かした大分県版脱炭素社会の実現を目指し、温室効果ガス排出削減に向けた緩和策をさらに加速するとともに、自然災害の激甚化や記録的な酷暑など、顕在化する気候変動の影響への適応策を一層進める必要がある。

近年プラスチックごみの排出量が増加傾向となる中、R4.4にはプラスチック資源循環法が施行され、事業者、消費者、行政等あらゆる主体の役割として、プラスチックごみの排出抑制、資源循環に向けた取り組みが求められている。廃棄物の不法投棄は依然として多発しており、先端技術等を活用した対策が必要である。

「第3次大分県環境基本計画」に基づき、各種環境施策を推進するとともに、「おおいたうつくし作戦」の取り組みを強化し、県民、事業者、行政が一体となって着実に進める必要がある。

【Ⅳ. 評価が著しく不十分となった指標】

指標名	達成率
該当なし	—